



札内川ダム

大正

昭和

5つの役割を持つ多目的ダム

札内川上流の札内川ダムは、台風や大雨の際の洪水調節と流水の正常な機能の維持、水道・農業用水の供給及び電気を作る水力発電を目的として、平成10年に完成した多目的ダムです。このように洪水調節の役割のほか、水道用水などの供給や発電するダムは「多目的ダム」と呼ばれています。

札内川ダムの目的

●洪水を防ぐ（洪水調節）

洪水調節容量：2,500万m³

→学校の25mプール15万杯分

●川の流れや生き物を守る

（流水の正常な機能の維持）

川の水量が減った際はダム放流して川の環境を維持

→基準地点の南帯橋地点で

3.21m³/sを確保

●飲み水を貯める（水道）

帶広、音更、幕別、芽室、池田、中札内、更別へ

→1市4町2村 約33万人分

●農地に水を送る（かんがい）

取水量：年最大5,521万m³

→札内川周辺の農地

約20,300haへ

●電気をつくる（水力発電）

年間発電量：32,500MWh

→一般家庭 約8,400世帯分

※年間発電量は至近10年平均



建設中の札内川ダム（平成7年）



札内川の礫河原



札内川ダム（平成10年完成）



ケショウヤナギの幼木



イカルチドリ



ダム見学会

●フラッシュ放流

近年の札内川は、河道内の樹林化が著しく、かつて河道内で広く見られた礫河原が急速に減少しており、氷河期の遺存種であり貴重なケショウヤナギの生育に適した環境の衰退が心配されています。また、渡り鳥の繁殖地としても礫川原は重要です。

フラッシュ放流は、一時的にダムから多くの水を流すことで、川の礫の移動を促し、昔から札内川にいた動植物の生育地や生息地、環境、景観を守る取組みです。例年6月ごろに行っています。

●地元の飲食品の貯蔵・熟成実験

ダムを活用した地域振興の一環として、地域の事業者と連携して、施設内の空間で飲食品等の貯蔵・熟成実験を令和4年から実施。リムトンネルや監査廊など低温で暗く安定した環境を活用し、地域性の高い商品開発等への活用の可能性を調査しています。

コーヒー豆の実験では、「かわたび」コーヒーと銘打ち、試飲会の開催やコーヒー店での取り扱いを展開中。

第2弾として、チーズと日本酒の熟成実験も開始しました。



コーヒー豆の貯蔵



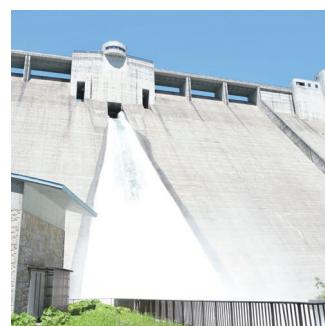
チーズの貯蔵



日本酒の貯蔵



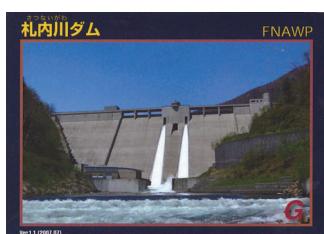
コーヒー試飲会



フラッシュ放流



札内川ダムの情報はこちらから！



ダムカード

平成

令和

100年